

2025.3.18

## インデックス～前田建設等、ガーナ有料道路でPPP契約交渉へ

建設コンサルタント企業のインデックスストラテジー(本社：東京都港区)～前田建設工業～ポルトガル・モタエンギル(Mota-Engil)～現地ストラテジックイニシアティブズ(Strategic Initiatives)の4社コンソーシアムは、西アフリカのガーナにおける有料道路のPPP(官民連携)プロジェクトについて、今年5月からガーナ政府とコンセッション(事業権)の契約交渉に入る。すでに事業化調査(FS)が完了しており、今年8月に横浜市で開催予定の第9回アフリカ開発会議(TICAD9)における契約締結を目指す。全長44kmの新規高速道路と、全長55kmの既存国道を一括して、30年間のPPPプロジェクトとして運営する計画だ。

新設される高速道路は「アペメニム～ダボアセ区間バイパス道路」と呼ばれ、ガーナ南西部に位置するウェスタン州のアペメニム(Apemenyim)～ダボアセ区間(Daboase)に全長44kmのバイパス道路を新設するもの。ガーナ政府側の担当機関は、ガーナ道路高速道省とガーナ道路公団。PPP方式を採用し、新設・運営・維持管理を民間に委託する。

一方、同バイパス道路に並行する既存の国道1号線についても、全長55km・片側1車線の道路を有料化した上で、PPPプロジェクトとして実施する。

当初は新規バイパス道路(全長44km)のみを対象とするPPPプロジェクトとして計画されていたが、2022年12月にガーナ政府が事実上のデフォルトに陥ったことにより、新設道路の運営に対するガーナ政府の財政支援が困難になり、既設の主要国道と組み合わせたPPPプロジェクトに変更された。

PPP契約締結後、インデックスストラテジー～前田建設工業～モタエンギル～ストラテジックイニシアティブズは、特別目的会社(SPC)を設立して事業を運営する計画だ。出資比率は日本・ポルトガル・ガーナで各3分の1ずつ。EPC(設計、調達、建設)はモタエンギルが担当する。国際協力機構(JICA)の海外投融資と、アフリカ開発銀行による融資を検討する。ANPR(ナンバープレート自動認識)などの新技術が導入される可能性もある。

[戻る](#)

※掲載記事の無断転載を禁止します。

著作権は(株)重化学工業通信社に帰属します。

Copyright (C) The Heavy & Chemical Industries News Agency, all rights reserved